

オオジシギ

Gallinago hardwickii (Grey)

チドリ目シギ科

石川県カテゴリー 情報不足

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

過去には小松空港や金沢市大浜埋め立て地で繁殖したとされている。近年穴水町や内浦町の牧草地帯でディスプレイフライトが観察されており、繁殖の可能性がある。情報収集が必要である。

形態

全長30cm。翼長14~17cm。体重110~230g。嘴はまっすぐで長く、黄褐色で先端は黒い。頭中央線、眉斑、顔、喉はクリーム色で、頭側線、過眼線、目の下の線は黒い。背と肩羽は黒褐色と赤褐色の斑で、外縁のクリーム色が連なり、縦線となる。頸、胸は淡黄褐色で黒褐色の縦斑があり、胸から脇には黒褐色の横斑がある。腹は白い。尾は黒褐色で先端近くに橙黄色の帯がある。

国内分布

本州中部の高原や東北、北海道の草原で繁殖し、渡りの時期には全国で見られる。広島など中国山地での繁殖例もある。サハリン南部でも繁殖するが、ほぼ日本特産種といえる。

県内分布

旅鳥として渡りの時期には県内各地の水田や湿地で見られる。過去には小松空港や金沢市大浜埋立地で繁殖したとされているが、その後環境の変化で消滅してしまった。近年能登の穴水町、能登町などの牧草地でディスプレイが観察されており、繁殖の可能性がある。

生態

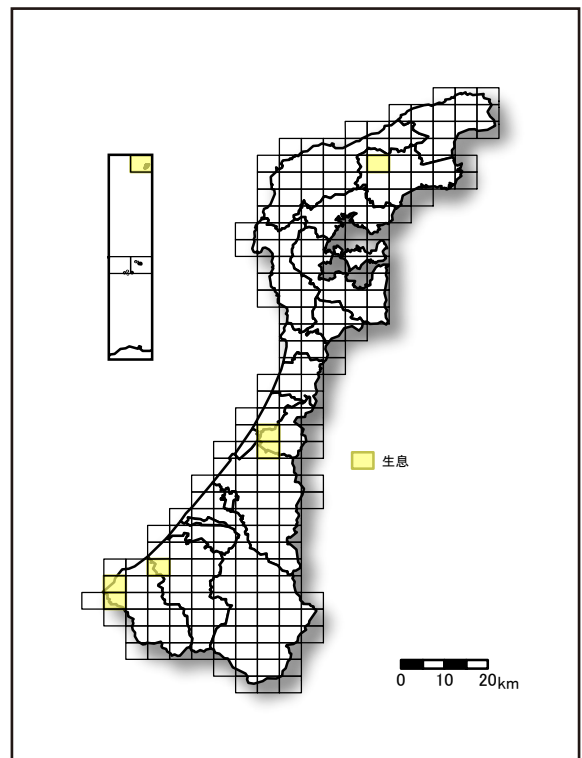
繁殖地では草原の地上に皿形の巣をつくり、ふつう4卵を産む。産卵期は5月上旬から6月上旬で、雌のみが抱卵する。雄は繁殖地上空を「ズビーヤク」と鳴きながら飛び回り急降下するときに「ザザザ」と大きな音を尾から発するディスプレイフライトを夜明けと日没前後を中心に行う。餌はミミズ、昆虫類などの小動物で、植物の種子も食べる。

生息地の条件

人のあまり入らない湿原や低木のまじった草原、牧場、農耕地などの開けた環境で繁殖する。本州では高原や山地など標高の高い地域に生息するといわれてきたが、近年標高の低いところでの繁殖も確認され、必ずしも標高とは関係せず、むしろ植生などの環境に左右されることがわかってきている。

生存の危機

渡りの時期に見られるが個体数は少なく、全国的にも減少傾向である。中国山地の例のように本県でも繁殖の可能性があるため、早急な調査をし、繁殖地が確認されればその地域を保護していく必要がある。(A, B)



県内の分布